

第32回 DAAS運営委員会 議事

□日 時： 2016年6月10日(金) 14:00～16:00(予定)

□場 所： 公益財団法人 建築技術教育普及センター内 第7会議室

住所：東京都千代田区紀尾井町 3-6(紀尾井町パークビル3F)

TEL:050-3786-0568(DAAS 事務局)

□ 議 事：

[報告事項]

議案1 第10期上半期活動報告

補助金活用事業報告

…資料1

企画運営部会活動報告

…資料2

[検討事項]

議案2 第11期理事・役員の任期満了、運営委員長交代について

…資料3・別紙1・2

役員交代について

理事会員について(会費減額・規約改定・予算調整にかかる件予算調整の件)

運営委員長選任について

議案3 第11期事業計画

…資料4

□ 配布資料：

資料1 補助金活用事業報告

資料2 部会での検討事項報告

資料3 第11期理事・役員の任期満了、運営委員長交代について

資料4 事業計画について

補助金活用事業報告

1. インタビューコンテンツ(オーラルアーカイブ)制作について

撮影者: 建築家 今里隆氏

タイトル: 「日本建築の次世代への伝達」

吉田五十八から学んだ日本建築と
現代の建築へ活かすことへの追求

収録内容: これまで手がけた仕事

(渋谷 O 邸、金田中、池上本門寺)

建築家として大切にしていること

これからの日本建築 等

成果物: 約 30 分の動画に編集

スタッフ: インタビュー 三塩達也氏 (DAAS 運営委員長) インタビュー

カメラ・編集 後藤大輝氏 (すみだクリエイターズクラブ)

ディレクター 三田大介氏・樋口珠由子氏 (すみだクリエイターズクラブ)

グラフィック 秋山伸氏 (有限会社エディションノルト)

進行管理 武藤奈津子 (DAAS)

ロケーション: 池上本門寺



2. バーチャルリアリティ(VR)を使った空間画像データの制作について

(ア) 工学院大学八王子図書館

(イ) ホテルオークラ (ロビー)

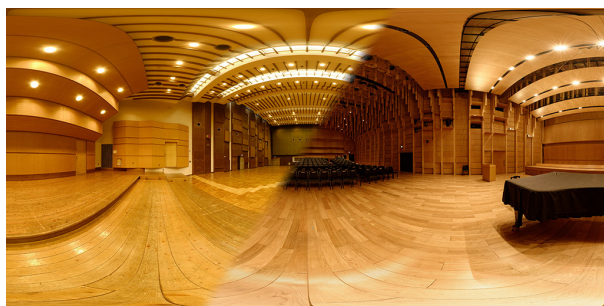
(ウ) 東京藝術大学音楽部第6ホール(改修前及び改修後)



(ア)工学院大学八王子図書館



(イ)ホテルオークラ (ロビー)



(ウ)東京藝術大学音楽部第6ホール ※改修前・改修前をスライダーで確認するインターフェースを採用

3. デジタルデータ化作業成果について

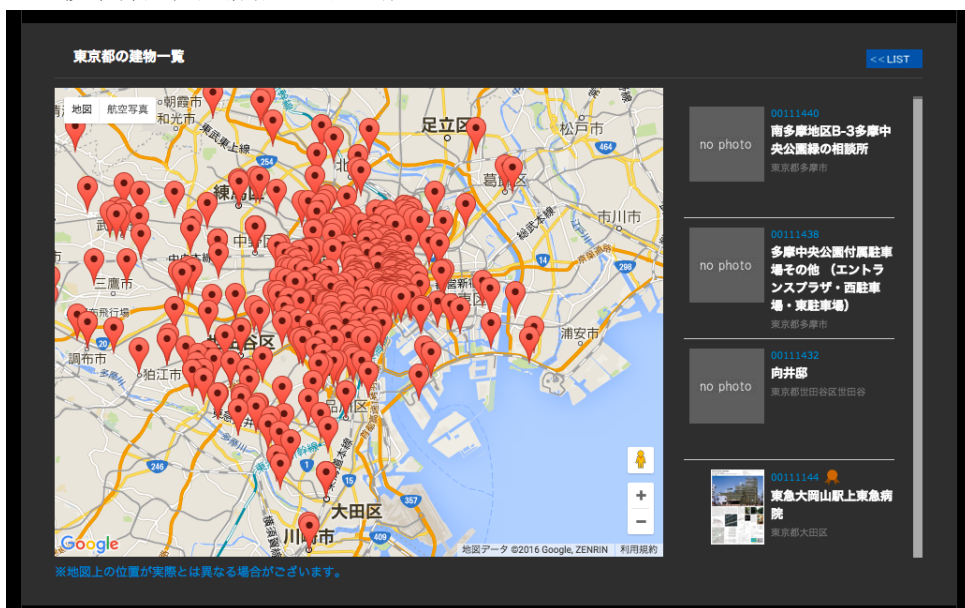
(ア) 表彰作品の現況情報の調査

- ① 緯度経度の数値と現住所を調査
- ② 建物情報の住所表示から、機械的な方法で緯度経度の数値を取得
- ③ 住所情報が古いもの、統合などによる住所変更、住所の不明瞭なもの、等々を目視で確認し、手作業で住所を訂正。緯度経度情報を修正・追加。
- ④ 各県の最北・南・東・北から数値が出ているものについて手作業にて住所を変更
- ⑤ Google Map上で建築物を確認し緯度経度情報を追加
- ⑥ その他建物の現況をインターネットの情報(改修・現存せず、等)を調査緒言情報に追記。

4. Webサイトの機能追加について

1.～3,のコンテンツを掲載するためのWebサイト改善と新規ページの追加等

- ① 地図検索緯度経度情報での表示機能を追加



- ② VR紹介ページの追加

お知らせ

DAAS連載企画 住宅生産革命児たちの夢の跡 松村秀一

DAAS連載企画 オンライン書籍

- A Book for Our Future 311 地域再生復興プロジェクト (宮城大学 中田ゼミ)
- 迎賓館赤坂御所天井絵画修復報告書 (国土交通省 大臣官房官庁営繕部)

ビデオアーカイブス

- 建築家 堀文彦氏
- 建築家 菊竹清訓 (イベント報告)
- 清家清作「宮城教授の家」撮影取材
- 建築家 難波和彦
- 建築家 古谷誠章
- 建築家 内田祥哉
- 建築家 池原義郎
- 建築家 池田武邦
- UIA 2011 東京大会
- デジタル卒業設計大賞2007
- DAAS活動紹介ビデオ

360°パノラマVR

- 代々木体育館
- 東急東横線渋谷駅

360°パノラマVR

360度全天球VRコンテンツについて

DAASでは、「360度全天球VR」データを収録・公開しています。VRとはVirtual Reality (バーチャル・リアリティ) の略称。日本語では「仮想現実」とも呼ばれます。



「360度全天球VR」とは、ある位置から360度×180度の映像を撮影したものを、PCやスマートフォンにて再生する際に立体的な空間体験ができるよう編集したデータコンテンツです。これにより建物や町並みの空間再生を実現するだけでなく、ジャイロセンサー(角速度センサー)が内蔵されたモバイル端末などで再生すると、端末の動き、身体の動きに合わせて風景が動くようにすることもできます。

このコンテンツを利用することで、例えば消失してしまった建物の撮影箇所(地点)にたち、モバイルツール等を使って同じ地点から当時の空間情報を再現することも可能となります。「現在と過去の空間を比較体験」することが可能になります。現在DAASでは、解体情報や解体前に収録の申し入れがあったもの、今後様々な理由により景観が変

企画運営部会活動報告

1. 開催状況と検討内容(2015年から2016年前期活動状況)

	2015 年		2016 年	
	7～9月	10～12 月	1～3 月	4～6 月
部会	○ ○	※ ○	○ ○	○
運営委員会	● ●			●

- 2015 年 5 月： 国土交通省にて WG の報告書を提出。
 ・WG 設置による成果とその具体的効果を口頭にて説明。
 ・WG での検討事項を引き継ぎ、部会にて議論を進める旨報告。
 ・その他 運営とコンテンツ制作にかかる今後の方針等意見交換
- 2015 年 7 月： 第1回企画運営部会の開催。
 ・企画書案に基づき、部会設置の主旨、検討事項の再確認
 ・WG 成果報告
 ・当面の課題について委員の意見を確認。
 ・コンテンツ収蔵ポリシー、企画案、連携、補助金の要請等意見招集
- 2015 年 8 月： 運営委員会開催。
 ・企画運営部会の設置と検討事項、意見等の報告
- 2015 年 9 月： 第2回企画運営部会の開催。
 ・予算を含めた第10期計画の検討
 ・運営委員会承認事項、第10期総会資料の検討
- 2015 年 9 月： 運営委員会開催。
 ・予算を含めた第10期計画の検討
 ・第10期総会資料の検討
-
- 2015 年 10 月： 国土交通省にて総会開催に関しての報告と会費状況の検討
- 2015 年 12 月： 第3回企画運営部会の開催。
 ・補助金活用・会費事業の事業推進チームの設置と事業内容の検討
 ・ミッションの再検討
 ・収蔵ポリシーの再検討
- 2016 年 1 月： 第 4 回企画運営部会の開催
 ・第3回議案を継続検討
 ・DAAS 設立時デジタル化作業における著作権等の整理
- 2016 年 2 月： 金沢見学会
 ・オープンアライアンス関係の金沢工業大学アーカイブを見学
 (有志にて)

2. 検討事項:事業推進チームの設置

	会費事業(必須事項を行う＝データやコンテンツの維持・保全・管理・活用)	補助金事業(コンテンツを拡充する為)
内 容	1.コンテンツの維持・管理・保全 2.メタデータの管理・改善 3.WEB サイトの改善 4.関連団体の顕彰作品の収集	1.新規コンテンツ制作 ・オーラルアーカイブ、VR 等 2.コンテンツ拡充 3.コンテンツ活用
チ ー ム	1～3.座長:中田委員 チーム:山崎委員、武藤 部会以外:大久保氏・遠山氏(DAAS)、入江氏(慶應大学)Web 制作:ブロードワークス 4.座長:竺主査 メンバー:今倉委員、鈴木委員、鯨坂委員、山崎委員	座長:三塩幹事 チーム:中田委員、武藤 委託先:君塚和香氏,墨田クリエイターズクラブ、秋山伸氏

- ① 各チームのコアメンバーは、本部会メンバーによって構成。ただし、事業推進に必要な場合、本部会メンバー以外の関係者等の参画が可能。
- ② 各チームには座長を置き、事業推進にかかる一定の権限(※)をもつ
 - ※1:チーム構成、人員構成、会議の招集、成果のとりまとめ、他
 - ※2:予算案内での執行を原則として事務局が関与し、必要に応じ企画運営部会の承認を得る(会計処理に必要な書類等の提出は必須)
 - ※3:外部発注先は、暫定的に前年度を基本とする(前年度実施における費用、及びこれまでの外部発注先の見積もり等により予算案を既に設定しているため)
- ③ 補助金事業実施のチーム3カ月間、DAAS会費事業のチームは第10期内を期限とする。
- ④ 会費事業4.については、まず各年の受賞作品を収蔵するための「環境造り」が必要
 - 募集要項の再確認(以前依頼していたが現在はどうなっているか)
 - ※DAAS-Web サイトに公開することが明記されているか。
 - データの受取方法、写真枚数、写真の形式、解像度、等々の詳細設定。
 - 募集要項に掲載する統一した書式を DAAS で再度作成する。
 - 撮影者の著作権の整理ができているか買い取りになっているか確認が必要。
 (応募には不要でも掲載には費用が発生する場合などもある)例:**別紙3**JIA 募集要項
- ⑤ 会費事業1. 2. については企業、団体、機関等への委託が必要。システム全体を見通す＝コンサルも必要。
- ⑥ 金沢工業大学のオーラルアーカイブをDAASで掲載する(必要により編集)という提案有
- ⑦ DAAS-Webサイト上、ログインにより公開している動画については、サーバ内での動画管理が煩雑で手間がかかる為(ブラウザごとの形式変更等)、字幕・各章区切りなどの多様な機能をもったYouTubeでの掲載を検討している。広告収入が得られる形にする、短縮版をYouTubeに掲載して公開する、という方法もありえる。ただし、コンテンツをYouTubeに掲載する場合は事前に関係者への了解をとる必要がある。

3. 検討事項:DAASデータのオープン利用にむけた著作権整理

(ア) DAAS構築プロジェクト(H17年度)終了から現在までの知財の状況の整理

[契約]

- ・ 国費成果(本来国に返納する)のうち、知的財産権は受託者へ留保できるという日本版バイ・ドールの条項を適用した委託契約を受託者(日本建築センター)と締結(受託者による知的財産の利活用を期待するという目的)

[委託業務]

- ・ 受託者の日本建築センターから (1)新建築社(メタデータ作成・補正確認・原権利者との権利調整、シンポジウムの企画と広報等)、(2)大日本印刷(高精細スキャニングと褪色補正:当時まだ技術が進んでいなかったため作業は1点数万円)、(3)慶應義塾大学(検索システム、API構築、サイト構築、等)へ「各作業」が再委託された。費用は主に「作業費」であり通常の委託契約を締結。発注者はBCJである為3者の成果物・知的財産権は、全てBCJへ帰属。

※ 構築プロジェクトにおいての新建築社への委託内容は「古い書籍からのメタデータの整理・作成、原権利者との権利調整」という膨大な作業費、人件費であり、写真の著作権等の無償許諾に該当する費用と考えるほどの金額ではない。また当時、他出版社にデータ化の呼びかけを行ったが了解が得られなかった。新建築社の著作権を買い取る、もしくは、同社のみが国費で有益な作業をしてもらったという見方に誤解がある。

※ その他、委託業務についてもいずれも作業費であり、当時褪色補正やシステム構築、デジタルアーカイブ構築には現在より膨大な時間、費用がかかった。

[著作権]

- ・ 新建築社に著作権のある褪色写真をデータ化したものは、単なる複製物(コピー)であり、そのデータ自体に著作権を主張できない。
- ・ 建築写真の複雑な権利、また、新建築社の未だ商品性のある建築作品の記録写真であるという事実を十分考慮し、著作権は新建築社に残した。
- ・ 新建築社に著作権が留保された「DAASで収蔵した6001点の褪色補正データ(当時)」について。DAAS-Webサイトで公開するには、新建築社から著作権法上の権利「無償の利用許諾」を取る必要がある。※現在、DAASが新建築社から直接了解をもらっているわけではない。
(受託者の日本建築センターとの契約は有効であるが、その権利は DAAS 法人化とともに譲渡する予定。現在まで法人化が先送りされた為契約も保留)

(イ) 第3回企画運営部会での意見を受けて

- ・ 「国費で整備した新建築社のデータをオープンに利用できない(利用料が発生する)」事について意見があがり再整理を行った。

[著作権問題(再掲)]

- 褪色写真の保護という当時緊急を要した事業において、著作権を留保しておくことが「著作権保護」と判断し、無償譲渡ではなく「Webサイトでの公開許諾」という形で新建築より了解を得た。
※今後無償譲渡を望む場合すべての経緯を理解した上での交渉が必要。
- しかしDAASが法人でない(権利譲渡不可)事は根本的な問題となる。

[著作権料の金額設定(データの商用利用について):DAASと新建築社との問題]

- DAAS プロジェクト構築当時、データの商用利用を見据えての検討の機会がなく、コンソーシアム設立後に商用利用の希望があった際にDAAS及び新建築社間で検討し、デジタルデータ化作業費用(1点当時2万換算)を折半するという方法で、金額を設定。

(ウ) 第4回・第5回企画運営部会での議論:DAAS データのオープン利用にむけての検討と著作権、法人化問題、今後の運営体制の提案

- 「DAASで収蔵しているデータは国費で整備された物であり、商用利用以外でのオープンな利用」を実現するためには、国交省、一財）日本建築センター（以下、BCJ）、新建築社、DAAS 間での著作権問題について、再度確認し共有した上での交渉と調整が必要である。
- ただし、譲渡保留、著作権問題の根本には DAAS の「法人化」問題がある。著作権の無償許諾という形で交渉、契約締結をするには、DAAS の「法人化」は必須。
- 法人化、著作権整理等、DAAS 内だけで討議し調整や交渉を進めることは難しい。国土交通省が主体となることが望ましい。（しかし国土交通省としての DAAS 法人化・及び関与に関して良い回答がない）
- 法人化できないまま、データをオープンに利用することを目的とした場合、打開案として、成果物の国への返納、国の運用・運営となれば「公共性のあることについては無償」となる。
- 法人化できない状況での問題・影響の再整理が必要
 - 組織的な基盤整備・安定化。
 - 費用支援の限界・会員離れ＝民間からの出資金での運営の限界（会員の費用負担）
 - 活動拡大の限界＝DAAS の活動の主軸である「コンテンツ」の著作権の留保
 - 資料拡大の限界＝新規資料収蔵時の契約問題。
- 法人化した場合の方向
 - 法人化した DAAS 組織を受け止める財団・団体があることが望ましい＝費用支援
 - 法人化を保留している理由「運営基盤や経営の安定化」の実現として財団や団体が DAAS の運営を引き継ぎ、会費負担の軽減をする必要もある。会費事業はコンテンツ・システムの維持・管理に充当されるという形であれば企業は協力でき、会員退会に歯止めをかけられる。＝会員確保・活動拡大・資料拡充
 - いずれの機関・団体でも引き受けられない場合、本活動を国で運営する、ということになれば、公共利用に関して著作権者が著作権を行使しないということが実現する。DAAS 活動の「国での運営」含めて国交省と相談すべき。＝国費で整備したデータの「公的」利用推進・活動拡大
- DAAS の法人化方策について
 - JAEIC、もしくはそれ以外の団体（公財、一社、一財等）による DAAS 事業吸収などの案。団体定款を読み込んで、DAAS コンソ事業を継承できそうな団体はないか検討する
- DAAS 法人化課題解決の先がない場合
 - 最悪、解散となるのか。解散による影響は何か、の確認
 - DAAS-Web サイト停止となるのか。国費で整備したものの所在はどうなるか。
 - 平成 17 年度 DAAS 知的財産を国交省へ返納（BCJ→国交省）
 - 平成 18 年度以降の蓄積コンテンツ等の全てを国交省へ寄贈（DAAS→国交省）
 - 専任職員の処遇はどうなるか。

(エ) 第5回部会での議論:部会での提言について

- 議論の継続だけでなく、時間軸を決め提言をまとめることが必要。統合・連携・継続・解散、等々の今後の DAAS についての選択肢を明確にし、それぞれ整理の上、来期（第 11 期）を目標に一定の結論・提言を企画運営部会で示し、委員会に諮る。

第11期理事・役員の任期満了、運営委員長交代について

1. 役員交代について

第10期で現役員の任期が満了となる。そのため、第11期初めの総会及び理事会において新理事・監事(案)・理事長・副理事長を含めた役員(案)を提出する予定であり、本件は、運営委員会の承認事項でもあるため、第5回企画運営部会においても役員案の事前検討を行った。

尚、代表者変更予定の連絡を受けている団体は、公益財団法人日本建築家協会(以下、JIAとする)、一般財団法人 日本建築センター の2団体であり、また、DAAS理事長の芦原太郎氏(JIA会長)においては、JIA会長の退任を機に次期DAAS理事長の職は辞退したいとの申し出を受けている。

理事長の選任については、来期以降のDAASの事業が新規展開となるか、現状維持とするか、もしくは連携・統合とするか、等々にも関連すると考え、活動方針の検討と併せて議論された。

予算縮小による事業の現状維持の場合は、内部からの理事長推薦が好ましいという意見もあったため、現在、運営委員長である竺委員を理事長に推薦する案も検討された。理事長については理事の互選となるため第11期理事会で選任となる。

2. 理事会員について(会費減額・規約改定・予算調整にかかる件)

企業理事会員の日建設計、日本設計より会費減額(会費2口から1口への変更)の申し出があった。

企業理事の会費設定の改訂の必要があれば運営委員会で検討し第11期総会で「会費等規程改定(案)」を提出する必要がある。会費減額による収支シミュレーションを別紙1に添付する。

3. 運営委員長選任について

三塩委員の運営委員長の御退任により、残任期(第10期)を竺委員に引き継いでいただいているが、本来は企業会員選出の委員が運営委員長となるのが望ましいという意見があったため、企画運営部会において第11期からの運営委員長として、山下設計の本多委員を推薦する案を検討している。

尚、規約上運営委員会運営等規程上、運営委員長は理事長が指定するため、(第3条 構成及び運営委員長等の選任)第11期からの運営委員長については、総会及び理事会にて新理事長就任後に指定される予定である。また、副委員長は運営委員会において互選し、5名以内を選任することが出来る。※運営委員選出会員名簿及び委員リストを別紙2に添付する

表1

会員登録再請求	発起人団体・企業名	第1・2期	第3・4期	第5・6期	第7・8期	第9/10期
個人	榎文彦	理事長	理事長	会長	会長	会長
個人	鈴木博之	—	—	理事長	理事長	
個人	六角鬼丈	理事	理事	理事	理事	理事
個人	隈研吾	理事	理事	理事	理事	理事
個人	難波和彦	理事	理事	理事	理事	理事
個人	古谷誠章	理事	理事	理事	理事	理事
個人	池原義郎	—	—	理事	理事	
個人	村井 純	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問
個人	和泉 洋人	顧問	顧問	—	—	—
団体	一般社団法人 日本建築学会	副理事長	副理事長	理事	理事	副理事長
団体	公益社団法人 日本建築士会連合会	副理事長	副理事長	監事	理事	理事
団体	一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会	監事	監事	副理事長	理事	理事
団体	一般社団法人 日本建設業連合会	監事	監事	理事	理事	理事
団体	公益社団法人 日本建築家協会	理事	理事	副理事長	理事長(理事長代行)	理事長
団体	公益財団法人 建築技術教育普及センター	—	—	監事	副理事長	副理事長
団体	一般社団法人 住宅生産団体連合会	理事	理事	理事	監事	監事
団体	一般財団法人 日本建築センター	理事	理事	理事	監事	監事
団体	一般社団法人 日本建築構造技術者協会					
団体	一般社団法人 建築設備技術者協会					
団体	一般財団法人 ベターリビング	—	—			
企業(ゼネコン)	鹿島建設株式会社	理事	理事			
企業(ゼネコン)	清水建設株式会社	理事	理事			
企業(ゼネコン)	大成建設株式会社	理事	理事			
企業(ゼネコン)	株式会社竹中工務店	理事	理事			
企業(ゼネコン)	株式会社大林組	理事	理事			
企業(ゼネコン)	前田建設工業株式会社					
企業(ゼネコン)	五洋建設株式会社					
企業(ゼネコン)	株式会社奥村組					
企業(設計事務所)	株式会社日建設計	理事	理事	理事	理事	理事
企業(設計事務所)	株式会社日本設計	理事	理事	理事	理事	理事
企業(設計事務所)	株式会社山下設計					
企業(ハウスメーカー)	積水ハウス株式会社	理事	理事			
企業(ハウスメーカー)	大和ハウス工業株式会社			理事	理事	理事
企業(デベロッパー)	新日鉄興和不動産株式会社					
企業(デベロッパー)	住友不動産株式会社					
企業(デベロッパー)	三菱地所株式会社					
企業(デベロッパー)	三井不動産株式会社					
企業(デベロッパー)	東京建物株式会社					
学術	慶應義塾大学					
企業(その他)	株式会社建築資料研究社					
企業(雑誌社)	株式会社新建築社	理事	理事	理事	理事	理事

DAAS収支シミュレーション(理事会員減額の場合)

別紙1

目標成果:支出パターンを組み立て、それに必要な会費収入を弾き出す素材となること
(年間経費で試算)

2016.6.3修正

説明:青字セルは自動計算、数値増減検証する部分は「黄色セル」

■支出の部

(1) DAAS-WEBサイト維持・公開必要経費(必須経費)

費目	金額	A	B	C	D	Aの小計	Bの小計	Cの小計	Dの小計	内訳等	支出先
サーバ管理委託費	¥800,000	1	1	1	1	¥800,000	¥800,000	¥800,000	¥800,000	サーバ維持・管理(OSセキュリティ対策、トラブル対応、簡易な更新作業)高精細画像の遠隔地保管(50,000+10,000)*12ヶ月*消費税込10%	ブロードワークス(Web管理)ワ ンビシ(遠隔保管)
保守費支出		1	1	1	1	¥0	¥0	¥0	¥0	第5期以降レンタルサーバ移行。第6期NAS購入	現状積立預金として180万残額
SSL認証経費	¥38,000	1	1	1	1	¥38,000	¥38,000	¥38,000	¥38,000	個人情報入力等に使用するSSL認証証明書維持経費	GMOグローバルサイン(株)
レンタルサーバー	¥15,000	1	1	1	1	¥15,000	¥15,000	¥15,000	¥15,000	daas.jpのドメイン使用権利/現在6ヶ月更新にて	お名前.com
デジマーク使用料(USD499)	¥63,000	1	1	1	1	¥63,000	¥63,000	¥63,000	¥63,000	電子透かし技術の使用権利。写真提供著作者への配慮の為必須 US499.00/枚数制限有(125円/USD 最大値として)	Digimarc.com
小計(1)	¥916,000					¥916,000	¥916,000	¥916,000	¥916,000		

(2) 事務局経費(必須経費)

費目	金額	A	B	C	D	Aの小計	Bの小計	Cの小計	Dの小計	内訳等	支出先
事務所経費1(現状事務局経費 支払いなし)	¥250,000					¥0	¥0	¥0	¥0	ちよだプラットフォームスクエア 契約料 (2014年4月より)光熱費含め約20,000円/月	ちよだプラットフォームスクエア
通信運搬費支出1(第10期予算 参考)	¥270,000	1	1			¥270,000	¥270,000	¥0	¥0	050ダイヤル、固定電話、インターネット料 金、e-mobile、携帯電話代(DAASのものが無い ため発生時に清算)	NTT.e-mobile ※普及センタと 別会計
通信運搬費支出2(第9期参考)	¥30,000	1	1			¥30,000	¥30,000	¥0	¥0	郵便料金(総会時等配布物)	日本郵政
旅費交通費1(第9期参考)	¥30,000	1	1			¥30,000	¥30,000	¥0	¥0	事務局内交通費	
会計士外部委託費1(第10期予 算参考)	¥173,000	1	1	1		¥173,000	¥173,000	¥173,000	¥0	DAAS会計を別処理とする以上必要経費 年度末会計書類作成費用(消費税込+源泉 込み)	浅井会計事務所
会計士外部委託費22(第9期参 考)	¥140,000	1		1		¥140,000	¥0	¥140,000	¥0	DAAS会計を別処理とする以上必要経費 月額顧問(消費税込+源泉込み)	浅井会計事務所
専任事務局人件費(第10期予算 参考)	¥4,080,000	1	1			¥4,080,000	¥4,080,000	¥0	¥0	直接人件費、法定福利費(雇用保険、健康 保険、労災保険、厚生年金 等) 第8期想 定金額	
法定福利費(第10期予算参考)	¥700,000	1	1			¥700,000	¥700,000	¥0	¥0		
事務局通勤交通費(第10期予算 参考)	¥200,000	1	1			¥200,000	¥200,000	¥0	¥0		
						¥0	¥0	¥0	¥0		
小計(2)	¥5,873,000					¥5,623,000	¥5,483,000	¥313,000	¥0		

(3) 総会経費(必須経費)

費目	金額	A	B	C	D	Aの小計	Bの小計	Cの小計	Dの小計	内訳等	支出先
会場借上げ費	¥100,000	1	1	1		¥100,000	¥100,000	¥100,000	¥0	会場費60000.20000.飲み物10000(マイク等 含)※コーヒ―等会場費に含めて計算	都道府県会館
その他備品	¥15,000	1	1	1		¥15,000	¥15,000	¥15,000	¥0	レンタル機器	
文房具等費用	¥10,000	1	1	1		¥10,000	¥10,000	¥10,000	¥0		
印刷代	¥5,000	1	1	1		¥5,000	¥5,000	¥5,000	¥0	外部での印刷の場合	
受付人件費	¥10,000	1	1	1		¥10,000	¥10,000	¥10,000	¥0	外部依頼する場合(半日拘束*1名)	
小計(3)	¥130,000					¥130,000	¥130,000	¥130,000	¥0		

(4) 運営委員会経費(必須経費)

費目	金額	A	B	C	D	Aの小計	Bの小計	Cの小計	Dの小計	内訳等	支出先
会場借上げ費	¥65,000	1				¥65,000	¥0	¥0	¥0	6,000*10回(委員会4回.WG等開催6回想 定)	
会議用飲み物代	¥22,500	1	1	1		¥22,500	¥22,500	¥22,500	¥0	ペットボトル水×15本*10	
文房具等費用	¥10,000	1	1	1		¥10,000	¥10,000	¥10,000	¥0		
印刷代	¥50,000	1		1		¥50,000	¥0	¥50,000	¥0	外部での印刷の場合	
旅費交通費2	¥300,000	1	1	1		¥300,000	¥300,000	¥300,000	¥0	運営委員会年4回開催×2名(委員会のみ 開催)	
小計(4)	¥447,500					¥447,500	¥332,500	¥382,500	¥0		

(5) 各団体受賞作品収蔵・公開経費(選択経費)

費目	金額	A	B	C	D	Aの小計	Bの小計	Cの小計	Dの小計	内訳等	支出先
日本建築学会賞	¥4,000		1	1	1	¥0	¥0	¥4,000	¥4,000	1回収蔵作業基準経費(2時間/人/上限 50点)+α	派遣先
日事連建築賞	¥4,000			1	1	¥0	¥0	¥4,000	¥4,000	1回収蔵作業基準経費(2時間/人/上限 50点)+α	
JIA各賞(毎年130点で計算)	¥7,000			1	1	¥0	¥0	¥7,000	¥7,000	1回収蔵作業基準経費(2時間/人/上限 50点)+α	
日本建築士会連合会賞	¥3,000			1	1	¥0	¥0	¥3,000	¥3,000	1回収蔵作業基準経費(2時間/人/上限 50点)+α	
BCS賞	¥4,000			1	1	¥0	¥0	¥4,000	¥4,000	1回収蔵作業基準経費(2時間/人/上限 50点)+α	
DAAS卒業設計大賞	¥90,000	1				¥90,000	¥0	¥0	¥0	出場者3名+事務局交通費	
卒業設計大賞備品	¥10,000	1				¥10,000	¥0	¥0	¥0	出場者3名表彰備品等	
小計(5)	¥122,000					¥100,000	¥0	¥22,000	¥22,000		

	A	B	C	D
ABCD各パターン支出計	¥7,216,500	¥6,861,500	¥1,765,500	¥938,000

■必要収入検討の部(会費設定シミュレート)

※2016.5.12現在、日建、日本設計 理事退任を希望。

(1) 現行会費単価、会員数から計算される会費収入(現状把握)

会員種別	現行単価	数		小計	
企業 51人以上	¥320,000	14	→	¥4,480,000	日本設計/日建設計/大和ハウス理事会員をやめ一口にを廃止
企業 11~50人	¥110,000	1	→	¥110,000	日建学院
企業 10人以下	¥60,000		→	¥0	
企業理事 51人以上	¥640,000	0	→	¥0	(日本設計は未納、日建設計は減口希望あり)
企業理事 11~50人	¥220,000	0	→	¥0	新建築が未納
企業理事 10人以下	¥120,000		→	¥0	
団体	¥200,000	10	→	¥2,000,000	
学術・教育	¥30,000	1	→	¥30,000	建築学会
個人	¥20,000	0	→	¥0	
SUM				¥6,620,000	(第10期予算より640000円減で検討)

(2) 会費単価を変数とした会費収入シミュレート(赤字セルは自動計算)

会員種別	単価	I	II	III	IV	Iの小計	IIの小計	IIIの小計	IVの小計	考え方
企業 51人以上	¥360,000									廃止: 月単価3万円
	¥320,000	14				¥4,480,000				現行: 月単価2.66万円
	¥300,000		14				¥4,200,000			減額: 月単価2.5万円
	¥240,000			14				¥3,360,000		減額: 月単価2.33万円
企業 11~50人	¥120,000									廃止: 月単価1万円
	¥110,000	1				¥110,000				現行: 月単価0.91万円
	¥96,000		1				¥96,000			減額: 月単価0.8万円
	¥84,000			1				¥84,000		減額: 月単価0.7万円
企業 10人以下	¥60,000	0				¥0				現行: 月単価0.5万円
	¥54,000		0				¥0			減額: 月単価0.45万円
	¥48,000			0				¥0		減額: 月単価0.4万円
	¥42,000				0				¥0	減額: 月単価0.35万円
企業理事 51人以上	¥720,000									廃止:
	¥640,000	0				¥0				廃止をするか?
	¥600,000		0				¥0			
	¥480,000			0				¥0		
企業理事 11~50人	¥240,000									廃止:
	¥220,000	0				¥0				廃止をするか?
	¥192,000		0				¥0			
	¥168,000			0				¥0		
企業理事 10人以下	¥120,000	0				¥0				
	¥108,000		0				¥0			
	¥96,000			0				¥0		
	¥84,000				0				¥0	
団体	¥200,000	10				¥2,000,000				現行維持
	¥180,000		10				¥1,800,000			現行維持(国交省より協力依頼の前提)
	¥144,000			10				¥1,440,000		現行維持(")
	¥120,000				10				¥1,200,000	現行維持(")
学術・教育	¥30,000	1	1	1	1	¥30,000	¥30,000	¥30,000	¥30,000	現行維持
個人	¥20,000	0	0	0	0	¥0	¥0	¥0	¥0	現行維持
SUM						¥6,620,000	¥6,126,000	¥4,914,000	¥1,230,000	

	収入 I	収入 II	収入 III	収入 IV	
再掲) 支出	支出 A	支出 B	支出 C	支出 D	
ABCD各パターン支出計	¥7,216,500	¥6,861,500	¥1,763,500	¥938,000	←支出パターンの検討結果より
収支差(収入 I の場合)	¥-596,500	¥-241,500	¥4,856,500	¥5,682,000	←自動計算の結果、マイナスは赤字表示
収支差(収入 II の場合)	¥-1,090,500	¥-735,500	¥4,362,500	¥5,188,000	
収支差(収入 III の場合)	¥-2,302,500	¥-1,947,500	¥3,150,500	¥3,976,000	
収支差(収入 IV の場合)	¥-5,986,500	¥-5,631,500	¥-533,500	¥292,000	

※大和ハウスもあわせて「理事会員二口廃止」により支出Bとした場合は、支出はパターンBも241,500円の赤字となる

パターンごとのシナリオ設定(例として)

A	削減項目: (5) 表彰事業のWeb掲載作業(専任事務員が行う)(補助金委託時のみ制作を行う) →補助金の支援を含めれば現状と同様のコンテンツ制作も可能
B	削減項目: (5) 及び、会議開催に伴う場所代、印刷代など →Aに加え所在地等の普及センター内での登録、通信費、委員会・総会にかかる費用等における全費用の支援を外部にて負担して頂く。卒業設計大賞廃止
C	削減項目: (2) 専任人件費及びそれに係る費用全体(選任事務局長廃止もしくは多機関所属事務局の無償派遣) 継続項目: (1)(3)~(5)の全て →団体として活動を継続する為の委員会開催・総会開催。日常業務は他団体への人的支援が得られる場合。もしくは人件費の支援が可能な場合
D	継続項目: (1)のサーバー維持、(5)の表彰事業の収蔵業務のみ →全ての事務業務等業務の他団体への支援が得られる場合(5)の表彰事業は外部委託※最小限の費用:事務派遣等で負担した場合

■第11期補助金事業委託時の収入検討の部(会費設定シミュレート)

※第11期補助金事業300万追記の場合				
	支出A	支出B	支出C	支出D
ABCD各パターン支出計	¥7,216,500	¥6,861,500	¥1,763,500	¥938,000
	↓	↓	↓	↓
各収入に補助金事業収入をプラス	¥3,000,000	¥3,000,000	¥3,000,000	¥3,000,000
収支差(収入Ⅰの場合)	¥2,403,500	¥2,758,500	¥7,856,500	¥8,682,000
収支差(収入Ⅱの場合)	¥1,909,500	¥2,264,500	¥7,362,500	¥8,188,000
収支差(収入Ⅲの場合)	¥697,500	¥1,052,500	¥6,150,500	¥6,976,000
収支差(収入Ⅳの場合)	¥-2,986,500	¥-2,631,500	¥2,466,500	¥3,292,000

←支出パターンの検討結果より

※Web改修を補助金で行い、残り150万でコンテンツを制作

運営委員会 委員選出会員
(運営委員会運営規程 第3条第2項 関係)

(順不同 敬称略)

■団体会員

一般社団法人 日本建築学会
公益社団法人 日本建築士会連合会
一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会
公益社団法人 日本建築家協会
一般社団法人 日本建設業連合会
一般社団法人 住宅生産団体連合会
一般財団法人 日本建築センター
公益財団法人 建築技術教育普及センター

■学術・教育機関会員

慶應義塾大学

■企業会員

【出版】

株式会社 新建築社

【設計】

株式会社 日本設計
株式会社 日建設計
株式会社 山下設計

【住宅】

積水ハウス株式会社

運営委員リスト

運営委員選出会員	運営委員名	所属部署名(会員名以外の場合は団体名)	役職名
株式会社日本設計	三塩 達也		常務執行役員
株式会社山下設計	本多 陽	広報室	
社団法人日本建築学会	真木 康守	社団法人日本建築学会	専務理事
社団法人日本建築学会	藤岡 洋保		
社団法人日本建築学会	笠 覚暁	金沢工業大学・金沢工業大学ライブラリーセンター	金沢工業大学ライブラリーセンター 館長 金沢工業大学工学部建築学科教授
公益社団法人日本建築家協会	鏝坂 徹	鹿児島大学	大学院理工学研究科建築学専攻
一般社団法人日本建設業連合会	今倉 章好		常務理事
一般社団法人住宅生産団体連合会	原田 聡(あきら)		広報部長
公益社団法人日本建築士会連合会	早川 敏彦	情報・国際部	
	鈴木 長則		
一般社団法人日本建築士事務所協会連合会	鈴木 雅之	広報企画	担当課長
一般財団法人日本建築センター	青木 徹 (森 正志 認証 部長 6/16から)		特命審議役
(公益財団法人 建築技術教育普及センター)	西尾 信次		専務理事(企画部長兼務のため)
社団法人全国市街地再開発協会	有馬 啓人	市街地再開発技術研究所	上席研究員
積水ハウス株式会社	穂本 敬子	技術部	部長
株式会社日建設計	早川 文雄	エンジニアリング部門 技術センター	副代表
株式会社日建設計	安生 暁		
株式会社新建築社	屋代	総務部	総務部長

4. 事業計画について

(ア) 第11期以降の運営方針・活動方針について

第11期末に一定の結論を出すことを目標として、引き続き企画運営部会で、来期以降の活動方針を検討し、運営委員会に提出する。活動方針に基づいた第11期事業計画案については次回運営委員会にて総会資料(案)として提出する。

(イ) 企画運営部会での検討事項

DAAS の運営に関する結論、選択肢の設定

- 法人化／連携・統合／事業の移行／維持／解散、等の方針決定と運営委員会への提出
- 国土交通省の意向と方針の確認(新規発展等について望めるのか否か。国費で整備したものについての整理は、国費で整備した組織の継続・解散はどうするのか。)

短期計画

会費設定と事業内容の精査

- 第11期予算について；予算見直しと予算にあわせた事業範囲の検討

中期・短期計画

法人化方策について

- WG での議論された目指すべき法人格(一般社団法人・一般財団法人)取得の可否についての継続議論。取得する場合は時期、方策等の検討。
- 法人化に必要な手続き・調整・交渉等についての継続議論
 - 組織基盤の安定化を実現する経営資源の確保、他機関の支援・協力の確保
 - 統合・連携の検討・他機関の情報収集(※国土交通省・文化庁・DAAS 会員・DAAS 会員外・大学機関)
 - 支援先もしくは統合・連携機関との交渉
- 法人化により、平成 17 年度の DAAS 成果＝新建築社データ、の著作権移転が可能となる為、その移転手続きの確認。
- 「解散」においての必要事項の確認(法人格取得時も「解散」手続きは必要となる)

DAAS コンテンツ・システムの著作権整理等

- 法人化、統合・連携等や事業拡大・解散、いずれの場合も改めて建築資料の著作者、関係者への連絡・調整が必須となる
 - (再掲)平成 17 年度 DAAS 成果物である新建築データの著作権移転は、法人化により保留されていたが、契約が可能となる。
 - その他著作者への告知・調整、契約等の締結

DAAS コンテンツ拡充、とシステム改変等々について

- 法人化・統合・連携をすすめる場合、DAAS メリットの拡大も考慮し、どのようなコンテンツを制作するかシステムを改変するかの議論(補助金活用事業とも連動する事項)を行う。

(ウ) 補助金活用事業・会費活用事業について

第11期補助金活用事業を受託する予定となっている。各事業の事業内容を企画運営部会にて検討し運営委員会に諮る。会費事業においては1.コンテンツの維持・管理・保全 2.メタデータの管理・改善 3.WEBサイトの改善 4.関連団体の顕彰作品の収集 を軸とし、補助金活用事業においては、DAASメリットを含めたコンテンツ制作を行うことを目的とする。

JIA 日本建築大賞 2016・JIA 優秀建築賞 2016 日本建築家協会優秀建築選 2016・作品募集要項

1. 目的

日本建築家協会（以下、本会もしくは JIA）は、日本国内における、その年度の優秀な建築作品を選定、記録し、**その活動と業績を広く社会に伝えることにより、文化としての建築の価値を高める事**を目的として、優秀建築選の選定、及び JIA 建築年鑑の発刊を行います。

さらに優秀建築選の中から、特に建築文化の向上に寄与し、芸術・技術の両面において総合的な価値を発揮した建築について、「JIA 日本建築大賞 2016」、「JIA 優秀建築賞 2016」を授与します。また優秀建築選作品は「日本建築家協会優秀建築選 2016」として、JIA 新人賞、JIA25 年賞、JIA 環境建築賞のすべての受賞作品と共に「JIA 建築年鑑 2016」に収録します。

2. 概要

総合的に高い水準を有する作品を広く公募し、建築に関して高度な見識を持つ建築家を中心とした公正なる審査委員会により「日本建築家協会優秀建築選 2016」を選定し、その中から我が国の現代建築を代表するその年の最も優れた作品を選び、「JIA 日本建築大賞 2016」、「JIA 優秀建築賞 2016」とします。

3. 応募作品の対象

2013 年 1 月 1 日より 2015 年 12 月末日（3 ヶ年）までに日本国内で竣工した建築作品です。また、同一作品の応募は 1 回限りとし、2015 年度以前に応募した作品は対象となりません。

4. 応募資格及び応募の方法

- （1）応募者は本会正会員または日本の建築士資格を有する、あるいは、海外の相当する資格を有する者である、当該作品の主たる設計者としてします。応募作品の数は制限しません。
- （2）応募者は、所定の応募申込書とともに 5. 提出書類に明記された提出書類を 2016 年 8 月 8 日（月）までに JIA 本部事務局へ郵送または持参ください。（必着）
- （3）なお、審査委員は応募できません。また、審査委員と関係の深い方（師弟・協同者、または同一組織等に所属する方）の作品については、当該審査委員は、当該作品の評価・評決・講評・現地審査等に参加しません。
- （4）応募後の設計者、協同者の変更は一切受け付けませんので、応募時に十分関係者の調整を行って下さい。

5. 提出書類

- （1）所定の応募申込書（A3 サイズ）
- （2）建築士免許あるいは海外の相当する免許のコピー（JIA 正会員は不要）
検査済証のコピー 確認申請不要物件は、不要理由を明記した文章
- （3）次の事項を A3 版（横使い）片面 4 枚以内にまとめ、（1）及び（2）の書類とともに、レール式（あるいはスライドバー）ホルダーなどでまとめてください。（ページ毎に透明ポケットに入れる必要はありません。）

必要事項

- ・ 実施設計図面一配置図・平面図・立面図・断面図・主要矩計図
- ・ 写真 5 枚以上 10 枚以内
- ・ 建物概要一建物用途・階数・建物の高さ・面積表・構造種別など
- ・ 2000 字以下の設計要旨
- ・ 作品の所在地を示す地図

- （4）ファイルは次の順番でまとめてください。なお、表紙はつけないでください。

- ・ 1 枚目：（1）申込書
- ・ 2 枚目～3 枚目：（2）免許コピー、検査済証コピー
- ・ 4～7 枚目：（3）必要事項

6. 選考の方法

- （1）優秀建築選審査委員会に提出された応募作品を、審査委員会において審査し、「日本建築家協会優秀建築選」として 100 作品以内を選定します。※2010 年度より 200 選から 100 選に変更になりました。
- （2）選定された 100 作品の中から「JIA 日本建築大賞」、「JIA 優秀建築賞」の候補作品 5～6 点を選び現地視察を行います。そこで「JIA 日本建築大賞」及び「JIA 優秀建築賞」候補作品を数点選び、その結果をもとに公開審査を行い、「JIA 日本建築大賞」1 点（その他は「JIA 優秀建

築賞」)を決定します。

- (3) 応募要件について虚偽があった場合は応募資格を喪失します。

また、以下の要件について、受賞後に基準に合わない事が明らかになった場合は賞を取り消す事があります。

「検査済証を取得していること」

「構造の安全性を満たしていること。」

「地域環境・近隣環境と良好な関係を保っていること。」

「既に公表されている建築と同一または類似のものでないこと」

「第三者の著作権の権利を侵害するおそれの無いこと」

「訴訟、トラブルなどの対象となっていないこと」

「その他、当要項の条件に違反したもの」

7. 審査委員会の構成

審査委員会は、建築に関して高度な見識を持つ5人の審査委員から成ります。審査委員の過半数は建築家とします。

2016年度の審査委員

深尾 精一氏 (首都大学東京名誉教授)

磯 達雄氏 (建築ジャーナリスト)

西沢 立衛氏 (建築家)

富永 譲氏 (建築家)

相田 武文氏 (建築家)

8. 選考結果の発表及び表彰

- (1) 「JIA 日本建築大賞」「JIA 優秀建築賞」及び「日本建築家協会優秀建築選」に選ばれた作品は、JIA 新人賞・JIA25 年賞・JIA 環境建築賞とともに「JIA 建築年鑑 2016」に掲載します。
- (2) 「JIA 日本建築大賞」及び「JIA 優秀建築賞」は JIA 新人賞、JIA25 年賞、JIA 環境建築賞とともに、4 月頃に行われる表彰式に於いて設計者を表彰します。併せて、作品パネルの展示をおこないます。

9. 応募料・掲載料

- (1) 応募者は1作品につき下記の応募料を応募と同時に、本部事務局に郵便振替で払込ねがいます。
- 応募料：30,000 円 (JIA 正会員は 10,000 円)
- (2) 「日本建築家協会優秀建築選」に選考された場合は、1 作品につき 60,000 円を掲載料として掲載原稿とともに本部事務局に納入いただきます。期限までに納入されなかった場合は、「日本建築家協会優秀建築選」及び「JIA 日本建築大賞」、「JIA 優秀建築賞」の選考を辞退したものとします。選考された方には要望により「JIA 建築年鑑 2016」を5部無料で提供します。なお、納入方法は別途通知します。

10. 著作権

掲載作品の著作権は応募者に帰属するものとし、本会は編集出版権を持ちます。また、複写権は本会に委託するものとし、本会が表彰作品の関係資料を展示および会誌、ポスター、ホームページおよび建築・空間デジタルアーカイブス (DAAS) コンソーシアム等に掲載等をする場合、無償で利用できるものとする。

11. 応募送付・問合せ先

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-3-18 JIA 館 4F

(公社) 日本建築家協会

「JIA 日本建築大賞」事務局 (担当：安田)

TEL: (03) 3408-7125 FAX: (03) 3408-7129

* 応募申込書および払込取扱票は、JIA WEB <http://www.jia.or.jp/member/award/kenchikusen/> をご参照ください。